



● バーベキューしました

10月14日、第1回まろまろ交流会としてバス旅行を行いました。

直前に台風が接近していたこともあり天候が心配されましたが、当日は快晴に恵まれ暖かい日差しの中、快適な小旅行となりました。お楽しみの七戸町「東八甲田家族旅行村」でのバーベキューは、追加で準備した食べきれないほどの海の幸山の幸がいっぱいで、みんな大々満足の表情でした。

たくさんの医療スタッフメンバーも参加してくださり、安心して？暴飲暴食できました。とくに、缶ビール7本の〇谷〇子さんの活躍が思い出深い出来事でした。帰りは、酸ヶ湯の紅葉などを観賞して到着。みなさん心地よい眠りに落ちたそうです。お疲れ様でした。準備担当の皆さん、ありがとうございました。



● 寄稿「戦争を知らない子供たち」

【まろまろ顧問】青森県立中央病院リウマチ・血液内科 久保 恒明 副部長

1) 戦争体験の風化

昨年は終戦 60 年、テレビや新聞では例年になく多くの太平洋戦争関連の企画があった年でした。そして戦争を実際に経験された方々はかなり高齢化し、相当数の方は既に亡くなっているのが実情で、貴重な戦争体験の風化の危機が叫ばれた年でもありました。

その一方では泥沼化する中東戦争の出口を模索する番組が数多く報道された年でもありました。

終戦 60 年という記念すべき年に、私は骨髓血を運搬するという目的であの被爆都市広島を訪れることが出来ました。

2) 被爆都市広島へ

雪の季節であったため陸路で広島に入りましたが、驚いたことに青森並みの吹雪でした。翌朝は快晴で早く目が覚めました。宿の窓からながめると真っ白に雪化粧した道々に朝日が差し、始発の路面電車の軌跡がくっきりと映えていました。平和記念公園がすぐそばにあったので、雪をザクザクと踏みしめながら原爆ドームに向かいました。中国人の親子連れの“写真を撮ってちょうだい”ということできとった一枚の写真を現像すると歴史の証人である原爆ドームが輝くような朝の光をあびて三人の親子連れを見守るようにそびえ立っていました。その足で広島平和記念資料館に向かいました。

資料館内には一瞬にして広大な広島そのものが消え去り、同時に無数の人間も灼熱の中に溶けてしまった様子が多くの証拠の品々によって語られていました。被爆によって白血病を発症したある少女が、薬の包み紙で小さい小さい千羽鶴を折りながら亡くなっていった話など数え切れない位の深い深い事実が紹介されていました。慰霊碑にはたくさんの花が添えられていましたが、添えられた花の上にも昨夜からの雪が降り積もっていました。自分と青森で留守番をしている家内と娘の分として 3000 円置かせてもらい、世界中の人々にそれぞれの家族と共に広島や長崎を訪れて欲しいと祈りました。

あの原子爆弾は科学が人間と自然を無視した瞬間に産まれました。原爆は人間の心の創り出したものであったということを強く意識しました。

次ページに続く→

はじめは小さなテーブルからはじめましょう。仲間たちとの会話から、新しい発見があるかもしれません。

都市としての広島はもはや戦後も感じることもさえないほどの大都会でした。しかし戦後60年たった現在も、原子爆弾が投下された広島や長崎は白血病や悪性リンパ腫の発症率が他の地区と比べて数倍は高いという事実があります。そうした戦後を今なお現実を抱えたままの終戦60年の広島にあって、骨髄バンクのドナーとして骨髄提供をして下さった方が確かにおられました。その貴重な骨髄血を広島から青森まで運ばせて頂いた多くの偶然に私は感謝しました。

3) 科学と人間と自然～前川國男の世界

聞き慣れない名前かも知れませんが、戦後の日本に近代建築の基礎を築いた故前川國男（まえかわくにょ）という方を紹介させて下さい。彼の建築は意外にも私たちの身近なところにあります。弘前城のお堀端に立つ弘前市役所を見て何かしらほっとする建物だと思う方は多いのではないのでしょうか。東京新宿の紀伊国屋書店は今も昔も東京の代表的な待ち合わせ場所、ここにいれば雨にも濡れずに済みます。上野の森にひっそりとある東京文化会館は45年以上経った建物ですが、音響効果に優れ現在も日本有数のコンサートホールです。ガラス越しに上野の森の四季の移ろいも楽しむことができます。前川國男の作品は、科学が産んだコンクリートという一見人間とは馴染みがたいような材料を用いながらも、人間と自然の関係が大切にされているため時の流れと共に自然の一部となっていく建築です（→私個人の感想）。

焦土となった戦後の日本には建築材料は枯渇していました。前川國男は第一に安定的な強度の建築を作ること考えたといいます。後進の若き建築家たちは、“前川先生の真似をすればまず間違いは無い”と絶対の信頼をおいたという逸話がありました。

4) 戦争を知らない子供たち

私は完全に戦争を知らない世代です。鉄砲の弾は飛んで来ないし、時に食べ物が余ってしまったと言っては捨ててしまいます。地道な作業や時間のかかる思考過程を回避しながらも良い結果が欲しくなったりします。人間の心によって一瞬にして焦土となった広島姿、その広島にあって見知らぬ誰かの幸せを祈っていたあのドナーさんの存在、戦後日本の復興を支えた前川國男のことが不思議に近い距離になって私の記憶の中にあります。

医学は無数の人間の知恵の集結した学問であるという意味では科学の申し子です。しかし医学の社会的応用である医療は、あくまでも人間と自然の営みの中に還元されてこそ本質的な意味が理解できると私は考えています。医療の現場の中にも様々な時間の過ごし方がありますが、同じ時間というものをすすすならば私は奇をてらうことなく基本的に忠実な骨髄移植を目指したいと思っています。

願わくは“青森の骨髄移植の真似をすればまず間違いは無い”と、言われる日が来たらんことを。



◇ ご存じですか

県病駐車場入り口の東側に、平成11年の「造血幹細胞移植第一号記念」と平成14年の「骨髄移植・採取施設認定記念」の2つの記念植樹があります。

今、先進の治療を受けることができるありがたさとともに、医療の進歩に尽くして下さったスタッフと患者さんたちへの感謝の念を新たにしました。



「骨髄バンク推進全国大会2006」に参加して

まるまる 副代表 柴谷 春子 ((財)骨髄移植推進財団 説明員)

平成18年9月30日、新宿区のパークタワーホールで開催された「財団法人骨髄移植推進財団」主催による『骨髄バンク推進全国大会』に参加してきました。会場は、全国から集まった患者さんや家族の方々、ボランティア団体の方、そして治療に取り組んでいらっしゃる医療関係の方々などたくさんの参加者で、いっばいに熱気があふれていました。

第1部の式典では、読売ジャイアンツ球団などへの感謝状贈呈が行われました。自らもドナー登録した上原ピッチャーの、ドナー登録活動についての力強い応援の言葉に大きな拍手がわいていました。

第2部のパネルディスカッションでは「将来の骨髄バンクに望むこと」と題して、移植に携わっている医師、コーディネーター、ドナー、患者家族で質問形式の討論が行われ、壇上で交わされたそれぞれの立場での想いを聞くことが出来、そして胸を打つ発言に目頭が熱くなる場面もありました。

青森県で細々とドナー登録会のお手伝いをしている私にとっては、骨髄バンクの現状の確認と今後の課題を考えるいい機会になりました。今後も、血液難病に苦しむ患者さんに一人でも多く、一日でも早く骨髄移植の機会が訪れ社会復帰していただけるよう、骨髄バンクの重要性を皆様に理解していただき、ご支援をお願いしていこうと、心に強く感じて帰って来ました。

年に一度開催されるこの全国大会に、来年も参加したいと思っています。まるまるの会員の方も是非一緒に参加してみませんか？これからまた、想いを新たにし、希望が湧いてくるかもしれませんよ。



(財)骨髄移植推進財団

平成3年12月に発足した公的骨髄バンクです。

広く骨髄提供希望者(ドナー)を募り、患者さんへ骨髄を提供する橋渡しを行っています。現在、ドナー登録者30万人を目標に、推進活動を進めています。

本県では、本年8月に「**青森県骨髄バンク登録協力会**」が発足。現在13名の「説明員」が所属し、ドナー登録会を行っています。

(お問い合わせ先)

代表 前田基行氏 TEL090-2790-8817

特定非営利活動法人

全国骨髄バンク推進協議会

平成3年6月、全国の骨髄バンク推進のために草の根運動を展開するボランティア団体が加盟して発足。現在の会長は、日本の骨髄バンク誕生の大きな推進力となった大谷貴子氏。患者の救済とドナーの保護を第一義に、より良い公的造血細胞バンクの実現と移植医療体制の充実を訴え、普及啓発、ドナー募集を中心とした活動を行っています。

本県では「**青森県骨髄バンク推進協議会**」が加盟しています。

(お問い合わせ先)

代表 根井力夫氏 TEL017-774-1221

● まろまろ交流会

10がつ14か



とにかくお天気には恵まれました！
だれのおかげでしょう！

バスについてくる
小倉先生



出発

運転手さんは
踊りの名手



道の駅しちのへ



バーベキュー〜



七戸
家族旅行村



イ・ビョンホン
より
ス・テ・キ

満腹～



食材たっぷり



帰りは酸ヶ湯の紅葉
を見てきました！
おっと7本目!!

レク係のみなさんのご苦労の甲斐あって
あっという間の楽しい一日でした。
一日笑っぱなしで
NK細胞も活性化したことでしょう！
次は、なにする～
どこに行く～



●情報・相談投稿コーナー まろまろのもろもろルーム

～事務局にお寄せいただいた情報などを紹介します。～

◆「家族に気遣い」

♡ おかちゃん さんから

昨年8月頃より風邪気味になりまして、近所の病院に通院しておりましたが、何げなく首の回りにしこりがあり、びっくりしてしまいましたが、耳鼻科へ行きましたらすぐに県立中央病院を紹介してくれました。

次の日から耳鼻科にて検査が始まりました。しこりは手術により取りましたが、やはり悪性だとのこと。本当にびっくりいたしました。これまでは、子供を産む以外には入院の経験もなかったので、とても悩みました。

頭の中に先に浮かんだこと。家事のこと、入院費のこと、色々と考えましたが、家族は幸いに娘3人ですので、とりあえず家のことは任せることに話合っ、そうしました。

入院費は、幸い主人が「任せておけ」と、結婚して初めてうれしい言葉でした。耳鼻科の皆様のはげましで、おかげ様で元気になれたと思います。こちらの病院のスタッフの方に心より感謝をいたしております。

◆「闘病中の生活情報について」

♠ もつけ さんから

インターネット、解説本を見ても、病気のことは詳しく書かれていても、日常生活（どのようなことに気を付ければ良いか）について具体的に書かれたものが少ない。

主治医は、普通に今までどおりの生活で良いと言うのですが・・・。

病気のことを考えると不安になる。電話相談（東京）したら、特にないと言う。私は飲酒のことが特に心配であった。

—編集部から—

退院時、看護師さんから生活指導を受けた記憶があります。

私もやはり酒のことが気掛かりで（煙草は止めたけど、酒くらい楽しみたいな）、先生に尋ねました。「付き合い程度なら」という、「付き合いのいい」私には有り難いご託宣をいただきました。

「もつけ」さんからいただいた件については、病状等に応じて答えが異なってくるのかと思います。

今後、このような質問などを集め、医療スタッフの方々から助言をいただいて「患者と家族のためのQ&A集」にまとめていきたいと考えています。皆様の投稿をお待ちしています。（しゅん）



● まろまろからのいろいろなお知らせ

◇ まろまろメンバー紹介カード

創刊号で、メンバー紹介コーナーの掲載についてお願いしたところ、たくさんの皆様から自己紹介ハガキを返信していただきました。まずは、第1弾として同封の「メンバー紹介カード」（カードじゃないけれど）にまとめてみました。

このカードは、メンバーに配付するほか、病棟などにも置いてもらう予定です。そして、カードをご覧になった患者さんから、「もう少し詳しく体験談を聞いてみたい」などの希望があったときには、なるべく要望に応えたいと考えています。可能な範囲でご協力をお願いします。

また、新しいメンバーの方などの紹介は、会報の紹介コーナーで連載していく予定です。

まだまだ、メンバーカード募集受付中です。書きたくなったら、事務局までお問い合わせください。

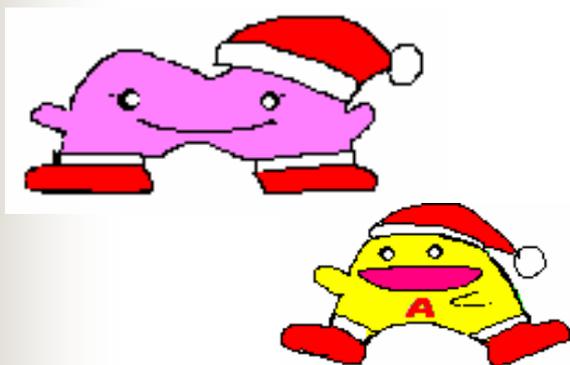
◇ 新年会の予告です

新年会を計画しています。

日時：平成19年1月13日(土)午後5時から

場所：未定(青森市内)

詳細決定の上、12月23日の学習会で参加希望を伺います。当日参加できないメンバーの方には、別途連絡します。



● 談話会(お茶会)開催中です。

とき:毎月第4土曜日午後2時から

ところ:県病8階食堂

土曜日は仕事の関係で参加できない方、ごめんなさい。

昼のイベントは、なるべく休日にするなど、もう少し工夫していきたいと思います。

● 情報、企画を募集してます。

会報に載せたい記事や情報はありませんか？
おすすめの本やレシピ。ちょっとした裏技。相談ごと。何でも結構です。

また、こんなことをしてみたいというアイデアも、随時募集中です。お気軽にお寄せください。

F A X :017-726-8083

E-mail:fwy2780@nifty.com



● 学習会しましょう。

第1回 まろまろ学習会

私たち患者・家族にとって、正しい病気の知識・治療法の知識を少しでも多く得て、前向きに取り組んでいくことは、とても大切なことだと思います。

そこで、青森県立中央病院にご協力いただき、次のとおり学習会を開催します。

出欠の確認は行いませんので、ご自由においで下さい。

会員でない方も大歓迎です。皆さん奮ってご参加ください。

◇ 日時

平成18年12月23日(土(祭日です)) 14:00~16:00

◇ 場所

県立中央病院3階 大会議室

◇ 講師

県立中央病院リウマチ・血液内科 小倉 和外 先生

◇ テーマ

造血幹細胞移植後の合併症について



※ 講演のあと、どしどし質問をお受けします。せっかくの機会ですので、ぎっくばらんに、活発な意見交換をしましょう。

※ 「これも話してほしい」ということがありましたら、事務局までお知らせ下さい。

詳しくは、下記事務局までお問い合わせください。



● 骨髄バンク情報 (H18年10月末現在。)

青森県の骨髄バンクの登録者 1,765 人 (目標数 3,302 人)
達成率 53.5% (全国第 4 6 位。他の東北各県の達成率は 80%
以上。福島県は 182.6%です。)

しかし、過去 1 年間の増加率は 140%で、全国第 2 位とな
っています。

私達もドナー登録推進活動を応援していきたいと思います。

——資料：(財) 骨髄移植推進財団——

血液疾患と歩む患者・家族の会 まろまろ

事務局連絡先 青森県立中央病院 リウマチ・血液内科 外来

TEL 017-726-8141 FAX 017-726-8083

〒030-8553 青森県青森市東造道2丁目1-1 県病HP <http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/hospital/>